

ファッション  
One Point  
アドバイス

ラッフルとフリルで  
夏っぽく！



ラッフル (ruffle) とは、「装飾り (ひだかざり)」「装縁 (ひだべり)」のことで、フリル (frill) とほぼ同義語なのですが、服飾の世界では、一般にフリルよりも幅の広いものをラッフルと呼んで区別しています。例えば、フリルスリーブのブラウスはノースリーブにフリル飾りが付いたデザインですが、ラッフルスリーブになると、ちゃんとした袖付きブラウスに見えます。しかも、フリルよりもボリュームなため、ゴージャスな雰囲気演出できるだけでなく、動きのあるラッフルが二の腕を部分的に隠し、華奢に見せる効果も抜群です。

人気の透け感のあるワンピースを、より動きがあって女性らしく着こなしたいなら、さまざまなデザイナーがショーで発表していた細かいフリルをふんだんに使ったタイプがお勧め。薄手の生地なので、フリルがレイヤー使いされていても重く感じず、これまでになかったゴージャス感を演出できます。普段着というよりも、夏場のおしゃれ着として活躍しそうです。

## 絵画の中の洗濯風景

### シャラントン橋の洗濯船



アンリ・ルソー作 (1895年)

アンリ・ルソー (1844-1910年) は、熱帯のジャングルを舞台にした鮮やかな色使いの幻想的な画風で知られています。日本でも早くから紹介され、藤田嗣治、岡鹿之助など多くの画家に影響を与えたとされています。

「洗濯船」は、パリのセーヌ川の土手に係留された屋根つきの船で、自宅から持ち寄った洗濯物を、使用料を払い、水に浸して船内にあるテーブルの上で棒で叩き洗いをするという場所でした。当時のコインランドリーといったところでしょうか。パリに初めて洗濯船が登場したのは約500年前で、20世紀の初期まで使われていたそうです。それ以前には、排水溝の近くなど衛生状態が悪いころでも洗濯していたので、洗濯船の利用によって清潔に洗濯できるようになったというわけです。

パリには、「洗濯船」という名のアパートがあります。ここにはピカソやモジリアニなど多くの芸術家が住んでいたことで知られています。

HD NEWS 2020年7月31日(隔月)発行 第16巻第4号通巻92号

くらし応援ニューズレター

# HomeDry News

ホームドライニュース No.92



ファッション・ワンポイント:ラッフルとフリルで夏っぽく!  
絵画の中の洗濯風景:シャラントン橋の洗濯船  
衣類のケア講座:衣類は大量の汗を吸収します  
衣生活の知恵:香水がアセテートに付くと脱色することも

まごころクリーニング  
ホームドライ ホームドライ  
<http://homedry.or.tv/>





## 衣類のケア講座

### 衣類は大量の汗を吸収します

クリーニングに依頼される繊維製品のほとんどは外着です。このことから、下着によって吸収されない部位に汗が集中しているといえます。上着であれば、襟周り、脇の下、袖口、スラックスでは太もも前部分やヒザ裏部分に汗が吸収されます。また、異素材の組み合わせでは、吸水性の高い繊維に集中することになります。



脇などに汗が集中します

ポリエステルなどの合成繊維よりも綿、絹、麻、レーヨンなどの天然素材が汗を吸収しやすく、生地構造の深くまで成分が浸透することになります。羊毛生地にレーヨン糸をピンストライプ素材として使用している場合、白いストライプが幅広く見えるようになるといった事例があります。

【公定水分率】

織	維	水分率
	綿	8.50%
	毛	15.00%
	絹、麻	12.00%
	レーヨン、キュプラ	11.00%
	ナイロン	4.50%
	ポリエステル	0.40%
	アクリル	2.00%

公定水分率とは、空気の標準状態を温度 20℃、湿度 65%と定め、その時の吸湿量を%で表したものです。一般的には、公定水分率の高い繊維ほど吸水性が高いということになります。

しかし、吸水性は、繊維表面の濡れやすさや繊維形状が関係してきます。最も公定水分率の高い毛繊維の場合でも、表面が水をはじく性質のあるウロコ状のものに覆われていることから、吸水性が高いとはいえません。



濃色の生地だと目立ち、淡色でも同様に汗を含みます

また、公定水分率の低いポリエステルなどの合成繊維であっても、最近は特殊な構造にすることによって毛細管現象を利用したり、吸水ポリマーと組み合わせたりすることによって、汗を吸収しやすいものも作られています。



### 香水がアセテートに付くと脱色することも



香水のアルコールの影響によって赤以外の色が脱色し、赤の染料だけが残った衫元。

香水の主成分は、90～95%のアルコールに香料を溶かしたものです。化学的にはアルコール原液に近いといってもよいくらいです。

アセテート繊維は、一般に分散染料という染料で染められています。アセテート繊維の衣類を着ているときに、衿周りや脇などに直接香水を吹きかけてしまいますと、分散染料が脱色してしまうことがあります。東京都立産業技術研究センターからは、献血の際に、消毒用アルコールを含んだ脱脂綿が、アセテートのブラウスに接触したことによって脱色したという例が報告されています。

写真のブラウスの衿周りは、赤系の黒っぽい生地が鮮やかな赤い色に変色しています。これは、赤い色がついたのではなく、香水のアルコールの影響によって、濃色を構成する赤以外の色が脱色し、赤の染料だけが残ったためです。